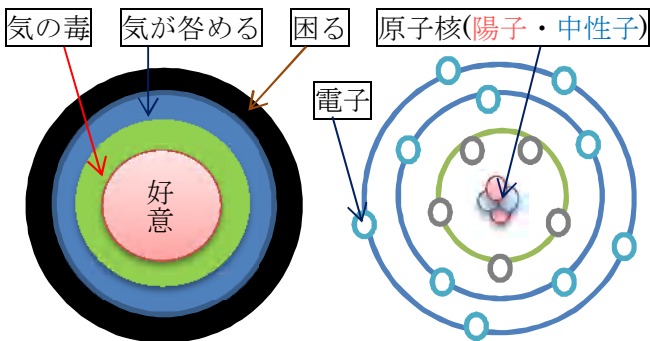


「気の毒」のワッ！

Junko Higasa 2014.3.13

『虞美人草』第18章『宗近君の来訪に対して歓迎の意を表する一点好意の核は、気の毒の輪で尻こそばゆく取り巻かれている。その上には気が咎める輪が気味わるように重なっている。一番外には困る輪が黒墨を流したように未来に連なっている』

ここで、何故か「核」の一字が目にとまり、重なる輪が気にかかった。「この文脈って原子構造に似ていないか？」ということで以下に図を描いてみた。



先の文は個人の因果応報を表すものだが、人類全体に広げて『猫』へ回帰するところも言える。寒月君の研究は恩恵と危険を併せ持つ。完成すれば「気の毒」なことが起るかもしれない。寒月君は少し気が咎めるので、なかなか研究を完成させない。もしその科学が戦争に利用されたら未来は暗い。困るワ。